

## 《策定の趣旨》

国内外の航空機市場が拡大するこの好機を捉え、「アジアの航空機システム拠点」の形成を目指し、本県が航空機産業の振興に取り組む指針として、ビジョンを策定する。

《ビジョンの位置付け》長野県ものづくり産業振興戦略プランの分野編

## III 長野県が目指す姿 2025年

### 航空機システム関連の企業や研究開発の機能が集積する「アジアの航空機システム拠点」づくり

目標① 航空機システムに係る人材育成から研究開発、実証実験までの一貫体制の構築

目標② 航空機産業に取り組む県内企業100社集積（県内調達比率の向上）

#### 《主なターゲット》

- 長野県の「強み」である超精密加工や電子・情報分野を集めてユニット化した「航空機システム」分野への展開

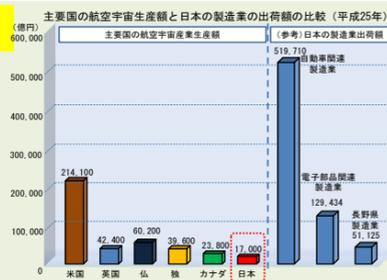
国内には、この分野の拠点が無い

航空機メーカー国内最大の集積地である愛知東海地域との連携強化

## I 航空機産業の概要

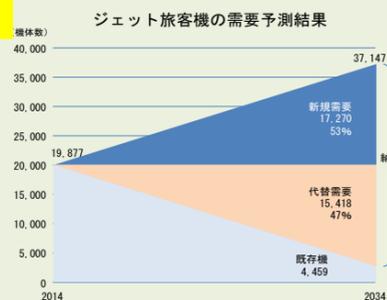
### 【市場規模】 航空機産業の今後の成長性が高い

- ・年間生産額が世界最大の米国では、21兆円（参考：日本の自動車製造業52兆円）
- ・日本は1.7兆円（米国の1/10）であるが、2020年後半に3兆円超に発展する可能性
- ・今後20年間で32,000機の需要が見込まれる



### 【長野県の動向】 航空機産業の全県への広がり

- ・H18年度から「飯田航空プロジェクト」が活動開始
- ・H26年には、中部5県が取り組む国際戦略特区「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター」に参加
- ・航空機産業のH25年製造品出荷額95億円（全国10位）



## II 航空機の生産体制の特徴

### ● 完成メーカーを頂点とするピラミッド型重層構造



※ 納入企業がQCDC（品質、コスト、納期）の責任を担う

出所：「フォーカス中部」（2015.12中経連）を参考に作成

- 長期間に亘る息の長い供給
- 求められる高い技術力と品質保証体制
- ・ JISQ9100（航空宇宙産業の品質マネジメント規格）
- ・ Nadcap（国際航空産業特殊工程プログラム）

一貫生産体制の構築が必要

## IV ビジョン推進に向けたシナリオ

### 1 「航空機システムに係る総合的な試験研究開発支援機能」の構築

- ① 高度人材育成・供給機能
  - 短期 信州大学航空機システム共同研究講座の実現
  - 長期 航空機システム研究を進める大学との連携
- ② 試験研究開発支援機能
  - 南信州・飯田産業センター等の集約化
  - 国や県の研究開発機関の連携強化
- ③ 航空機システム実証試験機能
  - 専門実証試験機器（国内唯一の機器）の整備

### 2 企業の経営・技術品質保証力の強化

### 3 航空機システム分野を中心とした企業誘致や他産業からの参入促進

### 4 国内外の販路開拓

### 5 国際戦略特区をハブとした県内企業とのネットワーク形成

## V ビジョン推進に向けた県施策の方向性

### 1 「航空機システムに係る総合的な試験研究開発支援機能」の整備

- ① 信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアムへの参画、必要な支援を検討
  - 広域連合 県 金融機関 地域企業 信大
- ② 試験研究開発支援機能の拡充検討
  - 産学官共同研究 技術相談
- ③ 実証試験インフラの実現に向け国、市町村等と協力して推進
  - 氷結試験 その他各種実証試験機器

■ 総合的支援機能を展開する施設の確保 県有遊休施設に係る土地・建物の活用検討

■ 品質保証の認証取得支援（JISQ9100、Nadcap）  
セミナー開催 専門家派遣

■ 国内外の航空機関連企業の立地支援  
国内唯一の航空機システム拠点として優位性をPR

■ 国内外の航空機関連展示商談会への出展支援  
海外の航空機メーカーやTier1企業へのトップセールス

■ 長野県テクノ財団 伊那テクノバレー地域センターに航空機分野の専任コーディネーターを配置  
航空機の開発動向情報収集 産学官連携研究開発支援

国の交付金・補助制度の活用